統合データベースプロジェクトの新しい日本語コンテンツ「新着論文レビュー」

○飯田 啓介, 中尾 光輝, 川本 祥子, 高木 利久

Database Center for Life Science (DBCLS), Japan
ライフサイエンス統合データベースセンター

要　旨

統合データベースプロジェクトにおける日本語コンテンツとして新たに，*Nature*，*Science*，*Cell* などのトップジャーナルに掲載された日本人を著者とする論文について，著者自身の手により日本語のレビューを執筆いただいてWeb上にて無料で公開する「新着論文レビュー」を開始する．広く生命科学全般にかかわる教員・研究者および大学院生・学生を対象とし，とくに生命科学において専門分野の異なる人を読者として意識する．論文の先進性およびおもしろさがわかるよう，結果や結論ばかりでなく，前提となる研究の経緯やバックグラウンド，および，将来の展望などもあわせて示す．また，よりわかりやすいものとするため，用字・用語の統一にくわえて，生命科学専門の編集者の視点から一文一文を吟味して大胆な修正を行っている．論文の出版から1か月以内，毎週1本以上，年間50本以上の公開を目標とする．サイエンスコミュニティの共有物として，出典およびクレジットの明記を条件に転載・改変・再利用（営利目的での二次利用も含め）を自由に行えるものとし，図に関してはPowerPointファイルとしてダウンロードして自由に利用できるようにする．

対象とする雑誌および論文

Nature 誌およびその生命科学系姉妹誌，*Science* 誌，*Cell* 誌およびその姉妹誌について，原著論文のうち，生命科学分野のもので，筆頭著者が日本人（筆頭著者と“contributed equally”の場合も含む）である論文を対象とする．

対象とする読者

広く生命科学全般にかかわる教員・研究者および大学院生・学生を対象とし，とくに，生命科学における専門分野が異なる人を意識する．論文の先進性およびおもしろさがそれらの読者にわかるよう，結果・結論ばかりでなく，前提となる研究の経緯・バックグラウンド，および，将来の展望などもあわせて示す．一般あるいはマスコミむけのプレスリリースとは対象・性格を異にする．

公　開

「統合データベースプロジェクト」（http://lifesciencedb.jp/）内の日本語コンテンツのひとつとして公開する．論文の出版から1か月以内の公開を目標とし，遅くとも2か月以内には公開することとする．また，毎週平均2本以上，年間で100本以上の公開を目標とする．

著作権とクレジット

「新着論文レビュー」の著作権は，それぞれの著者が保持する．また，出典およびクレジットの明記を条件に，転載・改変・再利用（営利目的での二次利用も含め）を自由に行えるものとし，そのため，クリエイティブコモンズ・ライセンス（CC）表示 2.1 日本 のもとでライセンスされるものとする．また，高解像度の図をJPEGファイルとしてダウンロード可能とし，自由に利用できるようにする．

誤解をうけやすい点として

- 書き下ろしです．原著論文の抄訳などではありません．
- 原著論文の執筆者自身が執筆しています．他者によるレビューではありません．
- 掲載論文は機械的に選んでいます．とくに選別はしていません．
- 図はすべて作り直しています．他の引用や転載ではないオリジナルです．
- 原稿そのままではありません．生命科学専門の編集者が編集をくわえています．

「新着論文レビュー」の売り

早 い：論文の出版から1か月以内の公開を目標としています．
多 い：毎週平均2本以上，年間で100本以上を公開の予定です．
わかりやすい：原稿は一文一文推敲し徹底的に書き直しています．

統合データベースセンターからの発信の意義

統　合 ➡ “糊”として，データベースをささえ，つなぐ
データベース ➡ アーカイブとしての意義・価値

電子書籍時代の新たな試みとして

- PubMedやPDBjなどへのリンク
- 付加的な情報の埋め込み・リンク

従来の紙媒体と比べて実感するのは

- コストがかからない
- スピーディ

「新着論文レビュー」が問いかけること

- 原著論文あるいは実験データはだれのものか？
- いわゆるアウトリーチ活動はだれがするのか？
- サイエンスの世界に著作権はなじむのか？
- 研究活動の出版に営利企業である出版社はどのような役目をはたすか？

タイトルデザイン：岡本　忍

Licensed under a Creative Commons 表示 2.1 日本 License © 2010 ライフサイエンス統合データベースセンター